

# GW明けのうれしいできごと

ゴールデンウィーク明けの今朝、勤務地まで車で一時間かかる三男が、いつもより三十分早い五時半に出かけてきました。詳しいことはわかりませんが、何気ない彼の行動の中に、自分で考え、判断して主体的に動いている部分が見られ、我が子ながら「社会人になったのだなあ」と頼もしく感じました。

逆に私は、いつもの時間に、いつものように家を出て、いつもの交差点に立ちました。いつものように、いつもの順番で生徒たちがやってくることを待っていたところ、意外な生徒が七時十五分にやってきました。

その生徒は三年のK・Yさんです。いつもは七時四十分ごろに、仲間二人と楽しそうに登校します。時には、三人の元気な会話が中央道ガード内に響いて、遠目でも彼女たちがやってきたことがわかることがあります。いつもの仲間と、いつものように登校できることは生活や関係が安定している証（あかし）。そんな彼女たちを、私はいつも微笑ましく見えています。

「おはよう！今日は一人？何かあるの？」

「はい。ゴールデンウィーク中に宿題が出ていたのですが、その答え（の冊子）を学校に忘れてしまいました。早く登校して答え合わせをしようと思っています。」

「そうかあ。がんばってね。いつも一緒に登校している仲間には言っているの？」

「はい、連絡してあります！」

答えを学校に忘れたことはいただけないかもしれませんが、答えがなくても連休中に宿題に取り組んだこと、答え合わせをするために、いつもより早く登校しようと判断して実践したこと、そして、仲間を大切にして、早めに登校する旨を連絡したこと、全てが自分の判断で実践されていることが素晴らしいと私は思いました。

答えを学校に忘れたことを理由にして、宿題が終えられていないことの言いわけとする。布団に入っている時間を短くしてまで、早めに登校しようとは思わない。気の合う仲間と別々の登校をしてまで答え合わせをしようとは思わない。こういう行動をとりがちな年ごろであるにもかかわらず、K・Yさんはしませんでした。これが彼女の「主体性」だと私は思いました。

彼女が通過してからしばらくして、仲間の二人（S・SさんとN・Sさん）が私の前をいつものように通っていきました。違っていたのはK・Yさんの姿がなかったことだけです。K・Yさんの「主体性」を温かく見守ってくれる仲間がいるのも、これまたうれしいことです。今日の下校時には、朝三人で話せなかつた分のおしゃべりでにぎやかに私の前を通過していくことでしょう。

（五月六日 記）